

URA の湯遍路旅日記 2013

——中国・タイ編——

浦 達 雄

1. はじめに

2013年の湯遍路の海外旅は中国・タイ・台湾で行った。温泉地・温泉施設などはそれぞれお国柄が出ており、個性的でいまさらながら興味深いと思った。ここでは紙面の関係で、その一部（筆者が面白いと思う内容）を紹介することにしたい。なお、これまでの湯遍路旅日記については、2012年8月発行の『URAの湯遍路旅日記－アジア・太平洋編－』（クリエイツ.）をご覧願えれば幸いである。

2. 春節後の北京行き（2013年2月28日～3月4日）

(1) 旅程

2013年2月28日から3月4日まで、PM 2.5で騒がれている大気汚染下の北京へ行った。

(2) 2013年2月28日（木）：移動、瑠璃廠

全日空159便は、現地時間12時50分頃、北京首都空港へ着いた。タクシーで宝辰飯店へ。14時10分着。メーターは72円で、高速道路代などを含めて86円の支払いとなった。ドライバーは女性だった。まず地下2階の時計屋で時計の電池交換を行った。30年前に購入したロレックス（偽物らしい）。電池は20円・30円・50円と言われ、50円にした。その後、銀行で両替。3万円が1,954.95円。つまり1万円は651.65円（1円＝15.35円）。2012年の2月は1万円が771.75円で、円安で大損をした。

夕食後、ホテルの部屋のNHKをみた。チャンネルは「67」。NHKニュースでは北京は黄砂がやってきて、PM 2.5は過去最大と放送されたが、街中でマスク姿を見たのは5人程度だった。

(3) 2013年3月1日（金）：北京華清温泉賓館

8時起床。今朝は青空が見えた。王師傅と一緒に北京華清温泉賓館へ出かけた。最寄駅は地下鉄5号線の立水橋駅で10時50分に着いた。11時15分、温泉施設に到着。フロントで128円×2人を支払った。水着は持参。まず靴を脱いで、スリッパに履き替えてロッカーへ。どういう訳かVIPのコーナーだった。

温泉施設は、中央に露天大浴場（水着着用）があって、左側に小さな温泉施設2カ所（露天で高温）、奥に展望の露天風呂があった。右手のビルの1階はプール、2階に休憩室とマッサージ室があった。食堂は大浴場の左手で、1人は25円で食べ放題だった。

大浴場の奥に室内浴場があった。9カ所の温泉施設があって、皆さん、男女別で入浴をされ

ていた。我々は知らずに空いた風呂に入ったが、そこは女性だけだった。その後、すべての風呂で入浴を楽しんだ。入浴客は果物とかカップ麺を持ち込んでそれぞれ食していた。

(4) 2013年3月2日(土)：紅橋市場、紅橋天楽玩具市場

11時、35路のバスで紅橋市場へ。裏側のビル「紅橋天楽玩具市場」へ行った。いままで1階だけ見ていたが、今回は2・3・4階も歩いてみた。3階は文房具の売り場で、鉛筆削りなどを買った。削りは3円で、交渉で2元となった。日本では105円となる。2階のおもちゃ屋では招き猫(小)を買った。1個25円で2個40元となった。違う店(北京駅前)で価格を見たら28元だったので、少しは賢い消費者になったかも…。12時20分、隣为天雅珠宝城のビル地下2階の食堂で昼飯。ジャージャー麺を食べた。11元。北京語で注文したところ、「何人か」と聞かれた。「日本人」と答えると、驚いていた。

17時、ホテルで張氏と待ち合わせをして菊水亭へ。食べ放題にした。118元×2人。当方のお土産は日本酒(辛口)・タバコ(1カートン)・チョコ(バレンタインの残りもの)。先方はワインを2本用意していた。多謝。張氏は家族に内緒で喫煙をしているらしい。

3時間近く話しをした。彼の話はいつも面白い。奥方が勤め先(銀行)で、2012年TOPの座を占め、香港の招待旅行が決定したとか。限定5組で4月15日から21日までのツアーで、娘を連れて家族3人で参加とのこと。奥方は子供と一緒にディズニーランドに行くが、自分は競馬を希望し、資金は1,000元らしい。そして、10月3日、勤務中に愛用の電動自転車を盗難。4,000元で買ったものだが、奥方から叱られたとか。現在、中古を1,000元で探している。物価の上昇が激しく、ドイツ製のミルク代は197元から240元へ。15%アップらしい。

幼稚園の入学金で2.3万元を支払ったが、小学校は5万元が必要で、頭が痛い。春節(旧正月)の時、近所でガス爆発があって、おばあさんが死亡。同居のおじいさんがガスをつけたまま外出し、それで引火したらしい。近くの人は爆竹と勘違いして、救助が遅れたとか。何とも言えない話である。

生活は苦しく、現在、義父から毎月1,000元、母から500元の援助がある。義父は70歳で元は軍人。年金は5,400元。義母は65歳で元は眼科医。年金は3,800元。

それから、子供の誘拐の話。先日、子供が誘拐されたが、500元のGPSで場所を特定し、犯人は捕まったらしい。子供を誘拐して、その腎臓を売るらしい。腎臓は10万元の価値がある。上海では熊15頭を飼育する奴が捕まった。やはり腎臓を薬にするとか。

PM 2.5の話になったが、本当に怖いのは山西省。石炭工場が多いからで、煤煙が目立つ。お金持ちは公害を恐れて、山西省から抜け出しているとか。

勤務しているホテルだが、1月・2月の稼働率は20%程度。政府による会議の規制の影響が出ている。したがって、人員はオーバーしており、1ヵ月の特別休暇をとると、1,120元/月の保証があるとか。彼の給料は現在1,780元。大卒となると2,400元となる。日本留学時代の卒業証書が欲しいらしい。

さらに、友人が7月、サッカーの試合観戦の関係で訪日するらしく、東京・横浜・大阪の地下鉄マップが欲しいとか。次回持参する約束をした。彼は北京駅東のバス停で59路のバスに乗車して自宅のある虎坊路へ。その前に甘栗を買ってくれた。500gが18元。高いと思う。

(5) 2013年3月3日(日)：金龍建国温泉酒店、瑠璃廠

9時30分起床。小湯山へ行こうと思ったが、昨夜の張氏の言葉を思い出した。「ホテルの近くに温泉がある」と…。当方は以前から確認をしていたが、道路工事で壊されてしまったと勘違いをしたホテルである。

行ってみると、金龍建国温泉酒店の敷地の奥に温泉施設があった。温泉倶楽部をいう名称。女子会所(女性専用の受付)があったので、フロントで話を聞いた。営業は12時から未明の1時まで。128元らしい。時計をみたら11時20分だったので、引き返して菊水亭でサンマ弁当を食べた。28元。弁当なのに味噌汁はない。でも美味しい。

12時20分から14時30分まで入湯。128元だった。やはり靴を履き替えてロッカーへ。風呂は室内風呂で裸入湯。浴槽は広くない。10分ほど入って洗身。68元と言われた。15分ほど…。次に油での洗身。追加で68元。5分で終わった。あとは洗身用タオル5元。

終わってシャワーをあびてガウンに着替えて休憩室へ。お客は少ない。TVをみた。何も頼まなかったのでオレンジが出てきた。感謝。帰路、プールを見学した。追加の支払いは41元。女子会所で100元の金券をもらっていたので、これが使用可能だった。もうけたと思う。

(6) 2013年3月4日(月)：中国旅游書店、帰国

9時起床。窓から北京駅の写真を撮った。空に太陽があった。今回は滞在5日で太陽を見たのは2回目。大気汚染が進んでいると思った。10時、国際飯店真裏のビルの503号室の中国旅游書店。温泉関係の本を購入した。6冊175元。1割引きとなった。それから、観光統計の冊子2013年を10部程頂いた。最新版である。これは帰国後、研究者の待ち人へ送る予定。

3. チェンマイ行き(2013年3月22日～26日)**(1) 旅程**

2013年3月22日から26日までタイのチェンマイへ出かけた。飛行機は大韓航空でソウル経由となった。目的は8月の温泉調査の打ち合わせ、そして温泉入浴とマッサージである。

(2) 2013年3月23日(土)：金の購入、動物園、マッサージ

8時、バイキングの朝食。卵焼きが美味しい。ガイドは通称サユリさんと、9時出発。過日ウクライナで頂いた米ドルが3,200ドルあったので、これを持参して金に交換することを目論んでいた。その旨を告げると、金の店に案内された。駐車場を確保するために、まずは郵便資料館を見学。

金は金の大きさと値段が異なった。15.2gは「大」だと22,350B、「小」だと22,700B。私の場合、持参金からみて、「小」の購入となり、小さな板を1枚、そして一回り小さな板を2枚買った。トータルで90,800Bだった。ところで、両替をしたが、1万円は3,040Bで、1Bは3.289円で、2012年8月の4,000Bに比べると、大幅な円安となった。

10時30分、動物園へ行った。駐車場代は50B、入場料は70B。入場料は外国人の場合100Bと高い。園内で施設間連絡バスに乗る場合はチケットが必要で、これは100B。パンダ舎は別料金で100B。園内にカメラマンがいて、写真は1枚120Bとなる。

12時、市街地の食堂で昼飯。ラーメン1杯は40B。ココナッツは1個30B。少なめの昼

食にした。サユリさんは、現在、母親が家を増築しており、その金額は 300 万 B と高い。妹は日本の金沢大学・東京大学で学んだ才媛で、チェンマイ大学勤務となる。母親はレストランの不動産を所有しており、テナント収入は 3 万 B/月。しかし、民間の場合、年金はないらしい。

16 時 30 分から 2 時間マッサージ。問診があつて、本格的なマッサージとなった。1 回は 400 B で、6 回の回数券だと 6 回で 2,100 B らしい。チップはその都度 50~100 B。

(3) 2013 年 3 月 24 日 (日) : ほたるのゆ、ポンアン温泉

①ほたるのゆ

9 時ホテル発。運転は私が担当。10 時 40 分、ヤンプートのほたるのゆに着いた。日本人が開発した温泉で、2009 年 7 月に開業とか。現在は地元の方が運営をしている。土地は 20 RAI (1 RAI は 1,600 m²) 程度。外に土管温泉があり、ここは入浴無料で、2005 年に整備したとか。ほたるのゆは露天風呂が 2 ヲ所、入浴料は 50 B で予約制となる。私は無理を行って、先客の日本人男性と一緒に入浴をした。多謝。この方は広島県出身で、家は大阪。年金は 500 万円/年とか。50 歳で外資系の会社をやめて、その後、タイ在住となったらしい。タイでの生活は 15 万円/月で、奥方がアルツハイマー気味で、現在、静養中とのこと。

入浴後、無料の土管温泉に入浴。土管は 5 つほどあつて、すべてに人が入っていた。水着着用で、地元の方は T シャツ・短パン姿で入っていた。タイ在住のオランダの方もいた。

12 時 20 分、近くの日本食堂で昼飯。経営者は「浦」と言つて、同姓だった。長崎の出身とか。ここで 5 年半在住し、その間、ほたるのゆを開発し、現在、日本食堂「レストラン TAKE」を経営している。サンマ定食を食べた。お客は 5、6 人いたが、全員日本人だった。先ほどのほたるのゆで一緒した方も昼飯を楽しんでいた。

②ポンアン温泉

13 時 20 分発、14 時 10 分、チェンダオ国立公園のポンアン温泉に着いた。開業は 2000 年、土地は 30 RAI。スタッフは 5 人で、2014 年に新温泉を掘削し、新コテージを造るとか。入場は 20 B で、車は 30 B。個室浴場は 30 B で、4 ヲ所あつた。

(4) 2013 年 3 月 25 日 (月) : ドイサケット温泉、コーヒー農園

①ドイサケット温泉

9 時ホテル発。10 時、ドイサケット温泉に着いた。ここは 2 回目となる。広大な敷地内をよく見ると、かけ湯の小プールが 3 ヲ所あつた。これは 2005 年に整備したとか。タイでは温泉入浴ではなく、かけ湯が温泉利用のスタートらしい。2012 年 12 月末、公衆トイレ・カフェなどを整備し、河川の改修が終わった。外来資本が開発した温泉は地元民の反対で、泉源が埋められていた。

10 時 30 分からマッサージ。11 時 45 分まで。240 B でチップは 100 B となった。11 時 45 分から普通浴室で入浴。25 分間、入湯を楽しんだ。普通浴室 (10 ヲ所) は 40 B (1 人)、高級浴室 (2 ヲ所) は 80 B。いずれも裸入湯が可能だ。

②コーヒー農園

15 時 57 分、高原研究訓練センターへ。自家製のコーヒー 500 g (300 B) を 2 袋買った。

4. GWの北京・山西省行き（2013年4月25日～29日）

(1) 旅程

2013年4月25日から29日まで北京&山西省へ出かけた。

(2) 2013年4月25日（木）：紅橋天泉玩具市場、琉璃廠

全日空の出発は、北京の空港混雑を理由として遅れたが、現地時間12時36分に北京首都空港にランディング。13時40分、タクシーに乗車。高速は混んでいる。空は青空で、雲がチラホラ。14時36分、宝辰飯店到着。タクシー料金は27.4キロで78元だが、91元支払った。部屋は941。

15時、宿泊先のホテルが入居するビル（恒隆商城）の北京銀行で両替。3万円が1,816.56元、つまり1万円=605.22元（1元=16.52円）。銀行で両替すると小銭も頂けるのでラッキー。

恒隆商城の地下2階の時計屋で、時計のロレックスの分解掃除をした。150元と高い。腕時計のベルト交換は78元、電池交換は50元×2。大消費をした。スーパーで買物。バナナ4本で2.17元。明日からの朝飯となる。

16時27分、北京駅東で39路乗車。43分に最寄りの法華寺下車。紅橋市場の裏に位置する紅橋天泉玩具市場に到着。迷ったあげく2階269号で買物。招き猫（中の大きさ）は35円で3個は100元。招き猫（小）は30円で2個は40元、招き猫（大）は35円で1個は30元だった。

(3) 2013年4月26日（金）：太原、山西大学

6時起床。ホテルの部屋にスーツケースをそのまま残して、山西省へ行くことにした。11時太原の空港へランディング。11時21分、王先生のお迎えがあった。担当の朱先生は、大学の仕事で今回は無理みたい。43分、招待所到着。部屋は1階で158。

12時15分ロビーに集合して今度は昼飯。隣のビル「山西珈琲」の2階で接待。13時30分まで。麺を主体とした料理だった。感謝。通訳は修士課程2年生が対応した。彼女は、現在6人部屋で生活しているが、入居は3人だけらしい。奨学金は600元/年とのこと。長期休暇は五台山のホテルでアルバイトをしている。

15時から講義。テーマは「日本の温泉文化と旅館経営」。2012年9月の講座で用意した内容だ。その時は観光資源調査で、この講義は休止となった。受講生だが、てっきり学生と思っていたら先生だった。50人が受講した。全国の専門学校の観光系の先生方の講習会だった。若い先生が多かった。話は通訳を含めて50分で終わったが、その後、17時まで質問タイム。10人ほど質問を頂いて、質問者には大阪から持参したボールペンを差し上げた。記念撮影とか名刺交換などをした。南の広東省など、遠くの方が多かった。

18時30分から山西珈琲3階で接待の夕食。大学の共産党の書記とか、先生方5人で会食をした。席上、山西大学がマンションの分譲を行った話が出た。2棟あって、それぞれ28階、16階で、合計400世帯が入居出来る。部屋は2,000元/m²、140m²の大きさが標準らしい。その他に内装代が12～13万元。大半の先生方が購入された。先生方の話では、河北省の白鹿

温泉が人気らしい。

(4) 2013 年 4 月 27 日 (土) : 鳳凰山生態植物園

6 時 30 分、起床。7 時 10 分、校外の食堂で朝飯。7 時 36 分、大学出発。高速に乗って、8 時 45 分、白村で高速を降りて下道へ。高速代は 35 元だった。通訳の先生が同乗された。8 時 55 分、鳳凰山生態植物園到着。

建設中の温泉施設の見学を行った。設計された温氏から説明を伺った。イメージとしては随・唐の時代で、皇帝の館をイメージしている。さらに海南島をイメージし、樹木を配列している。柱は樹木で隠して雰囲気を高めている。部屋は 40 室（その内、特別室 8）で、ホテルの裏側には広大な露天風呂が建設されていた。源泉は 2 ヶ所。投資額は 2,000 万元。開業は 2 ヶ月後とのこと。

温泉の入湯料金は 168 円で、一般の客室は 368 元、特別室の料金は未定。付帯施設として会議室（40 人程度）・マッサージ室・レストランなどがある。スタッフは 100 人程度の予定。宿泊したら温泉利用は無料となる。

昼飯は 11 時 50 分から 13 時まで、鳳凰山の梧桐山荘のレストラン。No2 の郭氏の接待。4 人で食べた。ここは自家菜園があるので、地産地消の食事となる。うどんが美味しい。植物園は入園料が 60 元。記念植樹をすると、入園が 2 回無料となる。当初 100 元だったが、現在は 150 元。これは毎年の支払いで、私は 4 年分を支払った。実際は 600 元だが、400 元にしてくれた。支払いを証明する通行証を発行してくれた。

農園でとれたナツメを大量に頂いて、休憩後に太原へ。14 時 14 分発、原太高速高路を利用して太原の空港には 15 時 50 分に着いた。16 時 MU にチェックイン。MU 1725 便で座席は 34 C。ゲートは未定。そうこうしている内に朱先生がやってきた。コーヒーなどを飲んだが、4 人で 300 元と高い。ブラジルコーヒーは 54 元らしい。席上、朱先生の子息、つまり日本留学中の彼のために、授業料 60 万円を預かった。飛行機が延発となって、結局、20 時 30 分過ぎに北京に到着。21 時 45 分に宝辰飯店にやっと帰って来た。

(5) 2013 年 4 月 28 日 (日) : 西単、天照商城、瑠璃廠

9 時 30 分起床。国際飯店勤務の張氏が病気ということで、日本から持参したお土産（酒・タバコ・菓子類など）をホテルへ届けた。これで一安心。

14 時 9 分、1 路のバスで復興門へ。バスを乗り換えて、14 時 36 分、月壇公園に着いた。天照市場は、以前は天外天市場と言って、私はよく利用したが、大雨で地下に水が入って閉鎖となって、その後、建て替えとなった。内部の店舗をよく見たが、商品は高いと思った。もうここに来る必要はない。途中で甘栗を買った。15.8 元×2。一袋 500 グラム。結局 16 時にホテル着。ロレックス 1 個の分解掃除・修理を頼んでいたが、無理だった。

ところで、北京の PM 2.5 だが、80-120 の範囲だった。毎日数値を新聞で公開しているが、この数値の意味がよくわからない。

5. 夏のタイ行き（2013年8月20日～24日）

(1) 旅程

2013年8月20日から24日までタイのチェンマイとチェンライへ出かけた。目的は温泉調査である。

(2) 2013年8月21日（水）：チェンライ県の温泉調査

チェンマイのホテルは VICTORIA NIMMAN HOTEL。7時50分起床。バイキングの朝食。果物と目玉焼きが美味しい。9時スタートかと思ったが、今夜の宿泊はチェンライとか。てっきり連泊と思っていた。大急ぎで荷物整理をした。

9時7分出発。ドライバーは昨年と同じ方だった。心強いと思った。9時45分ドイサケット温泉へ行く道を右手に見ながら一路メーカーチャンへ。チェンマイから北へ70キロ、チェンライへの途中にある。

①メーカーチャン温泉

10時45分、まず北温泉に着いた。。北温泉は日本語の表記だ。国道118号線のロードサイドで、ドライブイン型の温泉。ドライブインに温泉があるような感じ。足湯・内湯・露天風呂などがあつた。売店では貴金属・宝飾などを販売していた。経営者は潮州系、ここは兄で、隣のドライブインは妹の経営とのこと。道路拡張の際に現在地へ移転し、開業とのこと。

兄は北温泉を経営し、土地は11 RAI（1 RAIは1,600 m²）の広さ。源泉は間欠泉で、2本目とのこと。深度は100 mで、90℃。掘削費用は100万 B。オンシーズンは1月・12月・4月。1日100人ほどの利用があるとのこと。内湯と露天風呂の利用は150 B。

この温泉はタイ人ガイドの指導で開発された。ガイドの奥方が日本人で、日本や中国を意識した造りとなっている。投資額は400万 B。以前は道路の対面で経営をしていたが、道路の拡幅で、現在地に移転となった。

隣は妹が経営する ARENG FAH 温泉。娘の名前とか。土地は6 RAI。土地代は2,060万 B。ほかに30 RAIあるので、買わないかと言われた。現在の1 RAIは100万 B。

源泉の深度は70 m。掘削費用は6,000 B/m。現在では全体で100万 Bかかるらしい。温泉の管が詰まるので、対応を求められた。薬品のあることを紹介した。無料の足湯と個室浴場10室あって、個室は100 B。スタッフは10人。やはり貴金属の販売を行っている。

対面のドライブインは廃れていた。現在は寺院が所有とのこと。RAO RIVERの河岸に温泉が湧いており、現在も温泉池があつて、竹の子を蒸していた。売店は1軒のみ営業中で、他は人影なし。象・馬・牛などが砂に入った温泉成分を食べに来ていたとか。

②BANG PONG 温泉

11時36分発、11時57分 WING PAPA O 郡の BANG PONG 温泉にやってきた。温泉池の周りに温泉集落があつたが、いまは廃れている。BANG PONG 温泉は、もともと TUNG THEWEE 村の経営だったが、現在、民間に貸し出しを行っている。レンタル料は1,500 B/月。

現在の経営者は2004年から食堂と温泉施設を経営している。温泉施設は個室で3カ所。入湯料は30 B。源泉を浴槽に入れてから入浴するスタイルだ。オンシーズンは冬季で、多い時

で 10 人、20 人の利用がある。雨季などはオフシーズンで、少ない時は 1 人、3 人、5 人。

学生たちがバイクで集まる傾向があり、食堂で 10 人ほど食事をしていた。近くのカンパイカラオケは食事とドリンクがメイン。客室は 5 室で、それぞれ温泉浴室を付帯する。2007 年買収で開業した。経営者は日本人妻を持つタイ人で、食堂を担当する女性の姉は日本に滞在する。月に 1 回は日本へ出かけるとのこと。客室は泊りが 600 B、温泉利用は 300 B。土地の広さは 3 RAI。

12 時 25 分発、30 分頃に雨。12 時 40 分、街なかで昼飯。ドライバー・ガイドと私の 3 人で 260 B の消費。ラーメン 40 B・ライス 15 B だった。

③ランナー温泉

13 時 15 分発、13 時 57 分山の中のランナー温泉着。2011 年に日本通のタイ人僧侶が開業。土地は 4 RAI で、祖母の土地を利用した。源泉は 2003 年にポン プーフォン村が開発した通称竹の子温泉。昔から自然湧出しており、これを掘削して付近を整備した。足湯・売店などを整備したが、いまは廃れている。

チェンライ 40 キロ、メーサイ 102 キロの距離。ロッジ 4 棟、温泉施設 2 棟 (6 室)。入浴は 100 B。入浴をした。スタッフは 1 人で、冬は数人加勢。月給は 1 万 B。ほかに村の人のマッサージ師 2 人。投資額は 200 万~300 万 B。利用は外国人が多い。欧米・中・韓・日本など。4 月や雨季では、2、3 人/日、冬では 30 人~40 人/日。宿泊は 200 人~400 人/月。小バンガロ 500 B (1~3 人)・大バンガロ 1000 B (7 人)・テント 250 B (入浴含む) で、バンガロでの休憩は 500 B。聞き取り中に日本人の高年カップル、インド人グループ 5 人が入浴した。

14 時 36 分発、14 時 38 分、竹の子温泉で写真撮影。やはり動物が発見し、その後、村人がかぶり湯をしていた。現在は、温泉池で竹の子を茹でている。

④フェイサイカオ温泉

14 時 44 分発、15 時 20 分、バーン郡フェイサイカオ村の温泉施設に着いた。フェイは小川、サイは砂、カオは白いを意味する。チェンライから車で来て、トレッキングを楽しんでいる人に話を聞くと、60 年前から温泉があったとか。この 10 数年、健康のために来ているらしい。カップルが 2 歳の子供の足を治すため汲み湯をしていた。

この温泉施設は道路の拡幅で整備されたものだが、せっかくの温泉施設 (入浴) が廃墟となっていた。本当に惜しい。源泉は 3 ヶ所で湧出している。道路わきの売店でもち米を買った。5 本で 90 B。美味しいと思った。15 分ほど見学して、今度は小雨の中、白い寺を見学した。70 歳前後の日本人男性、30 歳前後のタイ人女性のカップルがいた。

17 時 40 分、チェンライ空港に着いた。ラチャプリユックカレッジ (RC) からの共同研究者であるシュティマ先生のお迎えをした。寅年生まれ的女性である。国立大学をリタイアしたのち、RC には 2 年間勤務しているとか。18 時 50 分 3 人で夕飯。510 B だった。RC の先生が支払った雰囲気だった。

(4) 2013 年 8 月 22 日 (木) : チェンライ県の温泉調査

8 時 30 分、ホテル発。昨夜は大雨だった。8 時 40 分、街中の食堂で朝飯。おかゆ 40 B・ご飯 5 B で、3 人で 135 B だった。9 時 10 分発、途中、ジャガイモ・パイナップル・バナナ・トウモロコシなどの畑を見ながら、9 時 35 分カレン族の民俗村を通過。

①パーソットリゾート

9時48分ドイハーン村に着いた。この温泉は2004年に開業。屋号はパーソットリゾートという。村営で2004年に開業。敷地は2RAIで、スタッフは3人。フロント2人・その他1人。フロントの給料は7,000Bらしい。温泉施設は11室、源泉は2本。温泉は付近のリゾートへ分湯している。分湯料金は1.5万B/年。温泉は戦前からあり、水牛の水遊び場として機能していた。村人は竹の子蒸しとかけ湯をしていた。プール利用は大人30B・子供10B、個室は1人利用50B、2人80B、3人100Bとなる。個室利用は50人～200人位/月程度。

役場での聞き取り調査によると、村の投資額は380万B。開発意図は観光振興のためで、村人の雇用創出を意図した。観光客は1万人以上/年で、外国人50%・タイ人50%となる。外国人はシンガポール・ドイツ・イギリス・中国人などが多い。雨季がオフシーズンで、冬がオンシーズンなる。冬になると、入浴に行列が生じるとか。村人は民芸品・温泉卵などの販売を行っていた。

②フォエ マークリアム温泉

10時30発、10時35分にフォエ マークリアム温泉へ着いた。敷地内の立派な掲示板によると、温度は56℃、pHは8.63とのこと。現在、キャンプ場としての利用が行われ、温泉は温泉池の見学だけである。以前は足湯もあったが、現在は様子すらわからない。文字通り看板倒れだと思った。コック(KOK)川を利用した船旅で観光客がやってくるらしい。オンシーズンは冬の10月から2月まで、オフシーズンは雨期の5月から9月まで。草抜きの女性の給料は1,600B/月。大半の施設が廃れていた。

11時47分、カレン族が経営する店でアナコンダの蛇を見学。購入価格は7,000Bらしい。小蛇は500Bとのこと。高校生と思われる女の子が店先で日本語の勉強をしていた。

12時7分発。車の中でRCのシュティマ先生の給料を伺った。4万B/月で、国立大学で働いた年金は現在2.5万B、将来は5万Bとか。子供はいない。

③ボン プラバート温泉

13時10分発、13時35分にボン プラバート温泉に着いた。温泉公園として整備したらしく、園内には恐竜の置物・足湯・マッサージ室・食堂などがあつた。温泉施設は新旧2カ所。現在は市営。スタッフは5人で給料は1,000B/月。客は冬に多くて、夏は少ない。温泉を整備した目的は、観光や旅行のためで、入浴客の売り上げは200万B/3年とか。多い時は1万B/3日間の売り上げがある。

奥に位置する新しい温泉施設は2003年の開業。入浴料は70B(1人)で、1人用が9室、大きな浴室が2室あつた。なお、プールは20B。温泉施設の利用客は5,000人/年で、70%がタイ人で、外国人は日・韓・アメリカなど。本日、韓国人の50人の団体が予約している。

入口に位置する古い温泉施設は1995年開業で、50B・80B・120Bの浴室があつた。営業時間は8時から20時まで、我々が見学中に中国観光客5人がやってきたが、入浴はしなかった。

④バートウン噴水公園温泉

14時24分発、14時50分にフェイスフォン村に着いた。ここはジャン川のほとりに温泉が湧いている。バートウン噴水公園温泉の駐車場で車を停めて、ジャン川の近くの温泉施設を最初に見学した。ここでは約50年前に温泉の湧出を確認し、2008年、チャンマイ大学が温泉を掘削した。深さは56m、温度は94℃。温泉施設は2カ所あつたが、現在は閉鎖されてい

る。継続性がないと思う。

村人は温泉卵を 20 B で販売している。本日の購入は我々が最初となったらしい。ジャン川は 4 月になると、河床から温泉が湧出するとか。2013 年 12 月に温泉の再開発を予定している。村人の男性は水門の管理をしており、給料は 1,000 B/月。

一方、現在、休業しているバートゥン噴水公園温泉は敷地面積が 25 RAI と広い。建物の投資額は 3 万 B。ここの温泉は国が掘削し、バートゥン市が経営を行っている。最初の温泉掘削は不明だが、2 回目は 1995 年で深さ 50 m、泉温 90℃。投資額は 10 万 B。最初の源泉は 110 m の掘削で 108℃ の泉温があった。源泉は 2013 年 7 月に枯渇したばかり。

温泉施設は 3 棟あって、それぞれ 8 室・12 室・大型 2 室からなる。利用者は 500 人/月、5,000 人/年で、タイ人が 70% を占めている。入浴料は 50 B。月商は 2~3 万 B となる。

温泉が枯渇するまでは限界を代表する温泉施設で、見学者や視察者が多かった。周りには宿泊施設やリゾート（数カ所）・マッサージ施設があって、この噴水公園は中核施設となっていた。したがって枯渇は大きな社会経済問題となっている。15 時 50 分、チェンライ空港へ。16 時 36 分到着。バンコクへ帰るシュティマ先生を見送った。

(5) 2013 年 8 月 23 日：チェンマイ県の温泉調査

9 時 30 分、スタンドでガソリンを入れた。700 km 走行して 1,300 B。サユリさんの口癖はガソリン代が高いこと。そのため、ドライブをする観光客が減っていると主張。

①MANLIKA 温泉

9 時 47 分、MANLIKA 温泉に到着。2013 年 3 月 29 日に開業し、6 月 6 日に県知事がやってきて、セレモニーをしたばかりというのに閉鎖の状態だった。土地は 10 RAI ほどあって、温泉施設もあったが、空き家の状態。村のリーダーが、別の現金商売（素直に言えば、麻薬の売買）に気を向けており、観光産業に対して意識が低いらしい。せっかくの温泉施設を開発したが、その後が続かない。フェイスイカオ村の温泉施設と同様の傾向だと思った。

15 分ほどで見学を終えた。道路上、ミカンとか、お茶の畑が続いた。経営は町の人で、労働は少数民族とのこと。リゾートが点在している。その他にカキ・トウモロコシ・タバコ畑・ゴムの木などが目に付いた。

②ファン温泉

10 時 25 分、コック（KOK）川の河港を車窓見学。11 時 6 分、ドイファー ホームポック国立公園（敷地は 350 RAI）のゲートを通り。入園料はタイ人 20 B・外国人 200 B。温泉はチェンマイ県に属するファン温泉という。

公園事務所での聞き取り調査によると、この温泉は 2000 年に開業。敷地は 10 RAI。源泉は 40 カ所、泉温は 50~87℃。噴気（ガイザー）は 1980 年代後半に開発し、42 m を吹き上げる。温泉は地熱発電にも使われている。

温泉全体が温泉公園を形成し、遊歩道が整備され、いくつかの源泉を公開している。主な施設は個室風呂 12 棟・コテージ 11 棟・マッサージ室・足湯・サウナ・キャンプサイトなど。

コテージは 11 棟の内訳は 6 棟 30 人収容、5 棟 36 人収容。テントの利用料は 225 B/3 人用で、宿泊は 90 B/3 人、60 B/2 人、30 B/1 人となる。コテージは 1 泊 2,000 B、個室風呂の入湯料は 50 B、タオルは 15 B。サウナは 30 B、露天風呂（水着着用）は 20 B。テントの利用は 30~180 テント/日。山の中腹にもテントサイトがあり、収容は 700 人/日を数える。

年商は1,000万Bを数え、観光客は10数万人/年。1日平均100人、月平均2万人を数えるとか。そのうち60%が温泉施設を利用する。オンシーズンは12月と1月、オフシーズンは5月から9月までの雨季となる。観光客の内訳はタイ人80%・外国人20%。タイ人は他県が50%を占め、外国人は欧米人が多い。聞き取りをしたスタッフはナタポーン氏。スタッフは80人で、公園全体では116人を数える。チェンマイ教育大学農学部を卒業し、入社1年目だが、以前はミカン会社での勤務経験がある。ナタポーンという名前には親近感がある。同姓の学生が大阪観光大学に短期留学をしたからだ。

③帰国の途へ

14時57分、ほたるのゆの近くを通過。15時20分、トウモロコシ3個入りを3袋買った。50Bで美味しい。サユリさんの話では、私がほたるのゆで一緒にした男性はタイ人女性と8年間暮らしているとか。

16時16分、ホテル着。マッサージをした。1時間300Bで、チップは80B。外で日本語が聞こえるので、様子を見ると、大分大学経済学部の学生16人（男子6人、女子10人）だった。チェンマイ大学との交流とか。旅程は5日間。18時33分発、30分でロビンソン百貨店に着いた。レストランFIJIは満席で、やむなくYAYOIにした。YAYOIもすぐに満席となった。日本料理の評判は実に良い。サンマ定食は175B。2人で414BB。今回のチップはドライバー500B、サユリさん1,000B。19時42分発、5分で空港に着いた。TG121便は予定通り飛んで、バンコクでTG622に乗り換え、結局、翌8月24日8時過ぎに東佐野の宿舎に着いた。

6. おわりに

2013年は6回ほど温泉がらみの海外旅を経験した。加齢と共に身体はだんだんキツクなるが、「旅先の疲れは旅先でとる」を最初の海外旅から実践している。また旅先で気が付いたことは、旅先で整理メモることを心がけており、これが旅日記のベースとなっている。

付記

本報告は今日新聞（別府市の夕刊紙）で、2013年12月25日から2014年2月4日まで29回にわたって連載した内容に加筆・修正したものである。しかし、今回、紙面の都合で写真及び2回分の旅日記をやむなく割愛した。

残暑の北京・山西省行き（2013年8月29日～9月7日）：主に山西省神湯都温泉の体験。

秋の台湾行き（2013年10月30日～11月3日）：民宿に関する講演、泰安温泉の調査。

したがって、新聞紙の切り抜き「URAの湯遍路旅日記2013」（完成版）については、大阪観光大学図書館に同名のテーマで全文を収録しており、お暇な方はそれをご覧願いたい。